

特集

身体知を リベラルアーツに

いわゆるリベラルアーツ、教養教育の内容は、教育機関によってまちまちです。書店でも、哲学や歴史、基礎科学、統計学など、さまざまな切り口の「リベラルアーツ」「教養」の書籍が並んでおり、またその目的も、「人生を豊かにする」「ビジネスパーソンとして生きぬく」など、さまざまです。

しかし、本を読んで多くの知識を頭に入れることが、いわゆる「教養を身につけること」なのでしょうか。

現在、一部教育機関ではその見直し、つまり、「頭で学ぶ」だけでなく、「身体で学ぶ」という「身体知」もまた、何かを学び専門性を発揮するうえで、重要なのではないか、という新しい考えが起こっています。この動きは、座学中心の授業から、アクティブラーニングへ、という動きとも連動しています。

一方、看護基礎教育はずっと以前から、実習や演習など、「身体で学ぶ」機会に恵まれてきましたが、実習時間の減少や、医療現場の変化などで、看護師が身体知を用いて患者と向き合っていない、という警鐘も昨今鳴らされています。

身体知をリベラルアーツにとらえ直そうとしている動きは、「身体知」の低下が叫ばれる、看護教育の内容にもつながるのでは、という思いで、本特集を企画しました。日々生きた身体に取り組まれる、みなさんの刺激となれば幸いです。